

プラス

第10回「学生デザインコンペ」

最優秀賞は早稲田大学 大学院 黒澤・木嶋氏

ボラスグループが開催している「学生・建築デザインコンペティション」は今年で10回目となる。その二次審査(最終審査)が7月3日に行われた。

第10回のテーマは「いま、わたしたちにどうして、快適な木造の家」

で、登録件数は566件、応募作品は362件だった。

一次審査会の審査委員中川エリカ氏(中川エリカ建築設計事務所)、野村社一郎氏(ボラス社内審査委員)。

中川エリカ氏(中川エリカ建築設計事務所)、野村社一郎氏(ボラス社内審査委員)。

優秀賞は、東京藝術大学大学院のZHANG SHILIN氏(中国国籍)とTIAN ZHAO CHEN氏(中国国籍)の「ザルの家」。多義的な樂しい生活。

入選は、慶應義塾大学

大学院の平野和代氏の「ドのある家」に決定した。

校の谷米匠太氏の「屋根裏につつまれて」。大阪公立大学大学院の松村貢之進氏の「家育てまち育て」。浅野工学専門学校の西村博志氏と小原廣之進氏の「家育てまち育て」。

空間ができるわけではなく、そこにはそれにふさわしい関係性をつくる。今日はちゃんと関係がつくられたと思つものが多かったと思つた。

今日はちゃんと関係がつくられたと思つた。自然のつながり、関係性をつくること

に成功したと思つている」と入選作品の講評を語った。

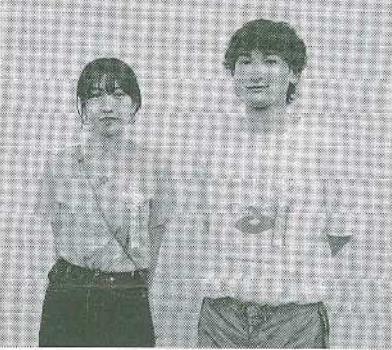
「今日はいろいろ考えさせられるプレゼントショ�다。ひとつは、出題を越えようとすると提案が多かった。出題は「快適な木造の家」だが、それを超える世界観を提示したという感覚があった。当然のように自然の形で一体化していく。

時代の変化なのか、感覚性の変化なのか、コソノベの蓄積なのか。何だつて壁で仕切ればよいわけではなく、建築技術で表彰後の講評で、審査

関係をつくる。ダイニング、リビングをつくれば



最優秀賞の「木工と暮らす 木工ヤードのある家」の模型



最優秀賞受賞の(左より)木嶋真子氏、黒澤優太氏